

ちょうふ

## 環境市民の交流会

### “エコマップ&カレンダー2008”をつくろう

#### プログラム

- 日時: 平成20年3月1日(土) 13:30~16:30
- 会場: グリーンホール小ホール(スタッフは午前中から準備)
- 内容: 市民団体の活動紹介とエコマップ&カレンダー作成のワークショップ  
(新) 懇談会準備会への参加呼びかけ、雑木林塾等行政事業紹介  
情報バザールコーナー(エコグッズ・パンフなどによる情報交換)

私たち「ちょうふ環境市民懇談会」は、行政と市民の話し合いの場として2000年11月より活動を続けています。この間、環境を取り巻く状況は大きく変化を見せてきています。

調布においては、2006年3月に環境基本計画が策定されました。計画実現には環境行政と広く環境に関わる市民団体や企業との連携が求められます。それにはまず市内を中心に様々な環境活動を行っている方々が互いの活動を知り合い、考えや課題を共有することから始めることが

大切です。

そこで、始めの一歩として、上記の通り「市民の出会いの場」を計画しました。これは皆様が、どこで、いつ、どんなことをされているかを互いに知り合う「エコマップ・エコカレンダー」作りを会場で実践し、また、その日の成果を今後のみなさまの活動や新たに活動を始め市民に役立てていただき、環境活動の情報共有の場にしたいと考えております。

みなさまのご参加をお待ちいたしております。

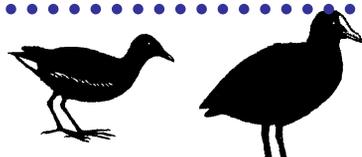
#### 【問合せ・連絡先】

- ・ちょうふ環境市民懇談会 運営委員長: 江刺益子
- ・調布市環境部環境政策課: 小松 (ちょうふ環境市民懇談会担当)  
TEL: 042-481-7086 Eメール: kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp

## 調布の自然

水鳥

バン・オオバン



#### <観察のポイント>

**クイナ科:** 当地では留鳥(多摩川では通年見られるが市内の野川では少ない) いずれも警戒心が強いが、体型は鶏に似ている(ヤンバルクイナを思い出して下さい)

**バン:** キジバト大で嘴の先が黄色く他は赤く額まで続く。全体的に黒褐色で脇腹と尾の下に白い縦斑が目立つ。・水際の草むら歩き回ることが多く、水面を首を前後に振って泳ぐ。動物質・植物質のいずれも食べる。・「カルルン」と鳴く。

**オオバン:** (近年、東京近郊の沼や川で増殖中)

・バンより二周りほど大きく、全体が黒い。嘴から額にかけて白く、お祭りの時の子供の白粉の様。目は赤い。・水面を泳いでいることが多く、水草の根や葉を好み潜って水生昆虫を捕らえる。・まれに「キョンキョン」と甲高い声で鳴く。

多摩川二ヶ領上河原堰の上流にある大きな中州には1本の樹があり、毎年この時期になると猛禽類のオオタカやハヤブサがやってきて羽を休めます。先日オオタカを見かけましたが、昨年秋の台風により辺りの状況が変化しているせいか高圧線にいるはずのカワウや水面の水鳥の姿は見えません。代わりに中洲を棲み処とするオオバンのファミリーと思われる10羽の群れが目につきました。そこで今回は日頃あまりスポットの当たらない「クイナ科のバン・オオバン」を対象に観察しましょう。明るい日中はほぼ見られます。

(唱歌の「夏は来ぬ」にあるクイナ鳴きとはどんな声だったのでしょか)

# サスティナブル (持続可能) な里・佐須の里を訪ねて (2)

12/1 のイベントで歩いた佐須の昔を、案内役の小林さんにまとめていただきました。

## 命をつなぐ水

かつて佐須の里には48箇所もの橋があったという。(調布市史:民俗編)水の中の村にふさわしい伝説もある。「大亀」の背でしか渡れぬ「島」があった深大寺開創伝説の舞台は、佐須の里だと伝えられている)また、昔の地目区分図(昭和35年刊「調布市土地宝典」)を見ると川と水路が網の目状に里の大地を刻んでいたことが分かる。



この水脈の主な源は、野川本流からの分水、深大寺のある谷戸と野草園や付属農場のある谷戸にある湧水群である。これらの水は、里の大地のなかで複雑に入り混じり、中心部では相互に用水を補完し合っていたようにも見える。またこれらの用水の水源は、いずれも佐須村の外にあった。水の確保をめぐる隣接村との緊張した関係を想像するのはたやすく、互いに用水利用のルールを定めていた

と思われる。またいずれの水源にも近くに古い社が在り、一円の里人にとって等しく聖なる場所として認識され、水をめぐる緊張関係を根のところで鎮める知恵も数百年以上にわたって働いてきた。

里の水網を見る時忘れてはならないのは、水と大地の部分、生態学では「水辺のエコトーン」と呼ばれる動植物の生命活動がもっとも豊かな場所が水網と一体となって

里を覆っていたことだ。谷戸の奥では、水面に木陰を写すような水辺には様々な水生動物やカニやホタルなど森と水中を往来する生物達のざわめきで溢れかえっていただろう。また、水田部では、多くが草土であった畔が、エコトーンである。むかしの田は、田一枚当りの区画は小さく、その一枚一枚に畔が廻るため、水田地全体では畔が占める率はかなり大きかった。その畔は一方で稲の生育に対する害虫の生息地にもなり、日々の草刈や冬季の野焼きは欠かせなかったが、牛馬の餌の採草地、フキノトウ、ツクシ、ヨモギなどの季節の野草の採取地、大豆などの栽培地、また田で働く両親の回りですぐす子供達の遊び場にもなり、人々にとって親しみをもって語られる「豊かな」場所であった。

現在の里では、水網や命がざわめいていた水辺の多くは失われた。だが、湧水といく筋かの水の流れや多くの水の流れの跡が残されている。この水の流れと大地と太陽と野生の植物らが再びつながり広がれば、命ざわめく里の回復は可能である。佐須の水路や水路跡は、次世代に命の輝きを伝えていくのに必要な大切な遺産である。(小林冬樹)

## ◆入間・樹林の会

1月20日、方形枠調査と樹名板の針金交換をしました。

マテバシイの広場の落ち葉が多くたまり下草が生えなくなるとの指摘が根本さんからあり、来月にも作業が必要です。

プチ違いシリーズは、ケヤキ・エノキ・ムクノキの木肌を観察しました。隣家との境界用に植えていたケヤキは、樹林地内で最も大木となり幹囲は290cm、その樹皮をめくるとヤモリが冬眠していました。傍のケヤキも280cm、入り口のシラカシは241.5cmと3大木が決定しました。広場のツバキの花1輪と、

マンリョウ・ナキリスゲ・ヤブミョウガ・キチジョウソウの実が目を見ました。

整備工事の進捗をみると、樹林地内を縦横に重機が立ち入り、方形枠周辺・貴重種付近への立ち入り禁止区域の調整など事前の工事関係者との打ち合わせの必要性を痛感しました。2・3月は、樹林地内への立ち入りも制限され活動も様子を見ながらとなり、鎌研ぎ等が中心になります。(安部)



「樹木名板のつけかえ-シラカシ」



左「ケヤキの樹皮の下で眠るヤモリ」

右「帽子にとまるクサカゲロウ」



## 調布の地形

多摩川にむかって階段状に低くなっていく調布の地形。一番はっきりしている所は国分寺崖線ですが、もう少し多摩川寄りにも小さな崖線が…。

上石原から東へと辿ってみました。



① 上石原にある機動隊北、水車橋の崖。府中用水ぎりぎりまで宅地になっている。川沿い東が凸凹山公園



② 崖線上の若宮八幡宮。ちょうふ八景に選ばれている。崖線の景色と調和して美しい。



③ 稲荷橋にある保全林。崖線の緑を使って児童公園になっている。



④ 布田の宅地に残る斜面には小さな竹林が残されている。



⑤ ヘビ山の先は羽毛下橋から始まる、せせらぎの小道。左のお稲荷さんが建て替えられてしまった。

## ちょうふ あちこち 染地2丁目



調布3中の南西角に大きなムクノキ、ある日その樹が突然伐採され、コンビニができました。敷地の角にあったので「切らなくても工事が出来ただろうに」と残念に思っていました。その脇にある溝は草ぼうぼうで残されていました。以前は用水路だったのでしょう。

しばらくそのままだったので、「イヌムギが実ってる」とか「ヒルガオが咲いた」とか結構楽しく眺めていたのですが、昨年秋にはとうとう溝も埋められアスファルトで固められてしまいました。全く意味のない小さな草地の溝だったのですが、そこが舗装されただけで辺りの雰囲気は全く無機質で無味乾燥なものに変化してしまったことは驚きです。

雑草の生える余地の無いすっきりとした舗装道路と草ぼうぼうで脱輪してしまいそうな道。皆さんはどちらをお望みですか？(N.K)

## 布田崖線緑地で

### 凸凹森の会

1月27日

凸凹森の会の活動日。講師に小池先生を迎えて梅の剪定を行いました。斜めになってしまった栗の樹も若木のうちにまっすぐに育つよう直したいとのこと。活動後はメンバーで今後のことなど色々話し合い。通りかかった筆者は取材させていただくのと同時に剪定した梅の枝をおみやげに頂きました。



すっきりした梅の樹



以外な使い道!



←剪定された棕櫚の皮。よく洗ってきれいな繊維だけにしたらメダカ水槽に入れるそうです。からみやすいのでメダカが産卵した後は、すみやかに他の水槽に移せるとのこと。もうじき来る産卵期に最適な道具とか。

メンバー随時募集 ☆ 環境市民 活動カレンダー & おしらせ ☆

◆環境モニター

※市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。

2月の活動はありません。

※次回3月は多摩川河原の植物調べを行います。

◆カニ山の会

2/9 (土) 10:00~14:00

集合場所: 深大寺自然広場 (野草園横)

内容: キャンプ場でお茶会・枯れ枝の整理や樹名板の制作など

(今回は雨のため中止になりましたので同じ内容で行いたいと思います。)

※原則毎月第2土曜にカニ山東樹林の保全活動を行っています。活動に参加してみたい方は直接集合場所へ。

※会費500円+保険料500円(年間)

◆入間・樹林の会

2/17 (日) 9:30~12:00

集合場所: 入間地域センター

内容: 道具の手入れなど

◆上記3グループとも、問合せは環境政策課: 042-481-7086 へ

第55回懇談会運営会議

日時: 2/12 (火) 18:30~20:30

場所: たづくり304会議室

内容:

- ・今後の環境市民懇談会について
  - ・3/1 実施の全体イベントについて
- ※どなたでも参加できます。資料の準備の都合上、会議に参加希望の方は事前に環境政策課へご連絡ください。

編集後記

たまに氷の張った水たまりや霜柱を見るとホットします。冬はこうでなくっちゃ!とはいえ、やっぱり春が待ち遠しい。凸凹山の梅のつぼみもふくらんでいました。(NK)

環境政策課の窓

冬来たりなば、春遠からじ。

ここ最近寒さも本格化を増し、布団から出るのも厳しい日が続いておりますが皆さんいかがお過ごしでしょうか?

一年の中で最も厳しい季節を一年の初めに迎えるということに思いを巡らせながら私も2008年のスタートを切ったわけですが、この時期はスタートであると同時に年度末という事業の締めくくりの時期でもあり、平成19年度の雑木林塾も今月で最後となります。

先月の活動は、鎌を持つ手もかじかむような寒さで非常に大変でしたが、寒さの中にも春を垣間見ることができました。収穫後の田んぼでは春の七草である御形やせり、仏の座等が早くも顔を出していました。

また、自然界でもこの寒さを乗り越えるため一生懸命。丸太をめぐってみると、そこにはカブトムシの幼虫が丸くなって春を待ち望んでいるようでした。土の中は暖かいのかは解りませんが、私も家ではなるべく暖房を使わずに、ウォームビズならぬウォーム布団で春を待ちたいと思います。(小松昭博)



ロウバイ ーロメモ

蟠梅、蠟梅、臘梅、唐梅、Chimonanthus praecox は名前に梅がついているためバラ科サクラ属と誤解されやすいが、ロウバイ科ロウバイ属の落葉低木。1月から2月にかけて黄色い花を付ける落葉広葉低木である。花の香りは強い。

(ウィキペディアより)

見た目がロウのような感触のきれいな花。1月の中旬には市内「古天神公園」で早くも開花のお知らせが入ってきました。その後、住宅地を歩いていてもいい香りが漂い、ちらほら見かけるようになりました。これが出る頃はそろそろ終わりも近いのでしょうか。春を告げる花というより、冬を告げる花と言った方がふさわしそうですね。



「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先: 調布市環境政策課 tel 042-481-7086

E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

調布市ホームページでカラー版がごらんいただけます  
→市公式HP→くらし→環境・緑化→ちょうふの自然だより